

# 世界自然遺産地域ネットワーク協議会

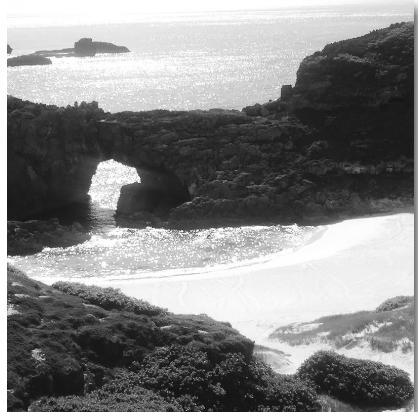
## 小笠原諸島視察報告

藤里町長 佐々木 文明

固有種のマイマイを絶滅させてしまうこと、関係する省庁はそれらの対策に大変な労力と経費をかけて頑張つてゐることであります。



海上視察へ



東京新百景「扇池」

平成29年度において、世界自然遺産地域ネットワーク協議会では、登録後5周年を経過した小笠原村において協議会を開催すべく準備を進め、その一環として小笠原村の視察を実施することとなり、参加者の都合により協議会の開催は秋以降になってしましましたが、屋久島町、藤里町の二町が小笠原村視察に6月28日（水）～7月3日（月）までの6日間（実質現地は3泊4日）参加してまいりましたので、その概要について報告いたします。

### ◇6月28日（水）

午前10時に東京都港区竹芝客船ターミナルより、おがさわら丸に乗船しました。出航は11時ちょうどで、少し小雨がパラついていましたが、順調な滑り出しでありました。所要時間は24時間のため、船内での状況は割愛させていただきますが、天候に恵まれてほとんど揺れを感じない快適な船旅でありました。

### ◇6月29日（木）

午前8時過ぎに賀島列島が左手前方に見え始めた頃、船内に於いてはガイドに

よる解説が2時間弱行われ、非常に充実した時間を過ごすことが出来ました。賀島列島が左手真横から左後方に過ぎて行くようになつた頃、いよいよ前方には父島列島が顔を出します。最初に孫島、次が弟島、兄島と続き、午前11時にいよいよ父島に到着です。

宿舎「のあ」に荷物を置き、昼食後は村がチャーターした船で海上視察へ。最初は北上して兄島に行き、島に張り巡らされている、外来生物等の駆除について説明をいただきました。絶海の孤島である小笠原諸島は、外から生物が入ってくる場合、海上の浮遊物に入り流れ着くか、風で飛ばされてくるかしかなく、それ以外は人為的に入り込んだもので、固有種が外来種に絶滅させられるとのことから、人間が入り込む際にも必ず靴の洗浄等が義務付けられているが、以前に入島された方はヤギであつたり、猫であつたりと、余り気を使わずに放置してきたため野生化してしまい、特に野ネコは固有種であるアカガシラカラスバトを襲っている画像が発見されたり、グリーンアノールと

西島を経由して孫島、弟島、兄島と同じく、全島が特別保護地域に指定されている南島へ。ここは、ガイド同伴でなければ上陸できず、また、1日の上陸者数も制限されているとのことでした。鮫池という入り江から上陸し、決められた歩道以外は立ち入り禁止で、歩道のすぐ脇で海鳥が卵を抱いている光景も。東側の展望台に上り、父島南部のハートロック

◇6月30日（金）

午前9時より、小笠原世界遺産センターと、東京都のビジターセンターを見学。遺産センターは今年完成したばかりとのことで、特徴的なのは、獣医師が処置するスペースを設けて、特に野ネコが発生しないような取り組みをし、一般の方も利用できるようにしているほか、様々な固有種の繁殖実験等も行つてきました。

その後、ウミガメの飼育をしている小笠原海洋センターに行き、カメにキヤベツを食べさせてきました。小笠原村では、島民の緊急時の対応として、空港建設を要望しているとのことで、建設予定地を案内していただきました。滑走路も1,200m程度しか取れないとのことで、場合によつては周辺の岩山も削らなければならなく、そうなれば計画そのものが実施できなくなる心配もあるようです。因みに、緊急の際は硫黄島から自衛隊のヘリが来て、患者等を乗せて硫黄島に戻り、そこから飛行機で東京に来るとのことで、ヘリをお願いす

ます。

午前8時過ぎに賀島列島が左手前方に見え始めた頃、船内に於いてはガイドに